

"Professor Kapp, The World Pioneer Economist on Environmental Problems Died" with a comment of Prof. Tsuru

環境問題の先駆的経済学者

W・カップ博士死去



公営や自然破壊など、環境破壊現象と資本主義社会の経済体制との関係を初めて解明した著書「私的企業と社会的費用」(一九五〇年刊)で知られる経済学者のウィリアム・カップ博士(スイス・バーゼル大前教授)が今日十日、バーゼル市で急死したことが、このほど、ローア夫人から、友人のわが国の経済学者や、同書の翻訳費を出版した岩波書店に寄せられた手紙で、明らかになった。六十六歳だった。

博士は一九二〇年ドイツのケーニヒスベルク市で生まれ、一九三六年、シュネーブ大学で「計量経済と外国貿易」の論文で博士号を得た。その後、ナチの弾圧でアメリカに渡り、ニューヨーク市立大教授をつとめた。一九六七年、スイスにもどり、以来、バーゼル大学社会科学研究所の教授をして、このほど定年で退任した。

昨年十一月、京都でひらかれた、日本学術会議主催の国際環境保全科学会議には招かれて出席し、「環境と技術―社会、自然科学の新しい関係」と題して特別講演をした。また、一九七〇年に東京で開催された、社会科学者の国際公営シンポジウムにも参加し、京都市田子の浦のヘドロ公害や、四日市の公害場場を視察するなど、わが国学界でも、よく知られた存在だった。「環境破壊と社会的費用」と題する新しい論文集の日本語訳も、昨年暮れ、出版されている。

ローア夫人は友人への手紙のなかで「花輪はいいません。代わりに、アムネスティ・インターナショナルに資金していただき」と述べている。

友人の都留重人朝日新聞論議顧問の話 先月末、手紙をもらったが、それには今年十一月、夫人とともに環境問題を調査のため中国に行くことになったので、一緒に行かないか、と書いてあった。アメリカ制度学派に属し、環境問題と正面から取り組んだ社会学者としては、世界の先駆者で、今後の活躍が期待されていた。亡くなったとは、とても信じられない。